

抄読会（分野打ち合わせ）

少子高齢化社会における小児医療の現状と課題

博士課程 2 年目 田邊雄大

概要

昨今、急速に日本は少子化が進行している。合計特殊出生率（女性一人が人生で出産する人数）は 1.20 まで低下しており、政府は少子化対策を講じるものの、効果は得られていない状況である。しかし、これは日本だけの問題ではなく、国際的な問題であり、今後多くの国で人口は減少に転じると言われている。将来に渡って更に進行する少子化社会において、医療資源（病床数）をいかに適正に配分すべきかを検証するモデルを構築することを研究テーマに据えた。

博士課程 1 年目から現在にかけて行っている DPC 全国データを用いた研究の進捗状況について報告した。令和 5 年度分のデータが近日中に追加される予定であり、これを含めて論文化を進めていきたいと考えている。なお、結果については、前回までに報告した通りである。そこから NDB のレセプトデータなどを用いた患者数予測モデルについてのプランを報告した。今回は、空間自己相関モデルの適応の可能性について検証を行った。実際に、モラン I 検定の実例や、インフルエンザ感染者予測の論文についての概略を報告した。研究費用によっては、利用可能なデータを応用して、このモデル適応も検討していきたいと考えている。

研究の方向性などについて多くの意見をいただき、議論をさせて頂いた。博士研究としての主目的である、「将来の病床予測モデル」に近づけられるように、検証を進めたい。